2016 年度 第 4 回

日時：6 月 8 日（水）17 時～
場所：総合研究棟 B 棟 110 教室

地質学セミナー

タイ北東部ガラシン県から産出した前期白亜紀の竜脚類化石

発表者②　清水　家齊　（生物圏変遷科学分野 M2）

インドチャイナ地塊に位置するタイ北東部のコラート高原（Khorat Plateau）には，中生界（上部三畳系～下部白亜系）の赤色の陸成層が広く分布している．この陸成層はコラート層群（Khorat Group）と呼ばれ，恐竜，ワニ，カメや魚などの多様な脊椎動物化石が産出することで知られている．近年続々と発見される恐竜化石が注目されているコラート層群の中で，特に豊富な恐竜化石を産する層の一つはサオ・クア層（Sao Khua Fm.）である．サオ・クア層の古環境は蛇行河川周辺と推定されており，堆積年代は花粉化石の *Dicheiropollis etruscus* に基づいて，前期白亜紀のベリアシアン～バレミアン前期と考えられている．これまでにサオ・クア層からは，3 属 3 種の獣脚類（*Siamotyrannus isanensis*，*Siamosaurus suteethorni*，*Kinnareemimus khonkaenensis*）及び 1 属 1 種の竜脚類（*Phuwiangosuarus sirindhornae*）が新属新種の恐竜として記載されている．

サオ・クア層から報告されている恐竜化石のうち多くを占めるのは竜脚類の化石だが，詳細な古生物学的検討が行われないまま，これまでその大半が *P. sirindhornae* だと結論付けられてきた．しかしながら，近年 *P. sirindhornae* と同定されてきた標本の中から，異なる形態をもつ化石が識別されたことで，カマラサウルスあるいはブラキオサウルスに似た“Taxon B”や，ディプロドコイドに似た“Taxon C”の存在が指摘されている．したがって，これまでに *P. sirindhornae* とされてきた標本を改めて検討する必要がある．

2001 年に，サオ・クア層が分布するプー・ペン（Phu Peng）の丘の麓から獣脚類やカメの化石とともに，脊柱，肢帯，四肢の部位，及び歯から成る 20 個を超える竜脚類の骨化石が，ほぼ関節していない状態で発見された．これらの化石のサイズには明らかな違いが見られるため，複数の個体が混在していることが推測される．また，これらのプー・ペン標本は正式な記載が無いにも関わらず *P. sirindhornae* の化石と考えられてきた．しかしながら本研究で肩甲骨の化石を *P. sirindhornae* の完模式標本と比較した結果，著しい形態の違いが見られた．さらに種の決定に重要な部位である頸椎の化石も，*P. sirindhornae* 及び“Taxon C”とは異なる点があった．以上から，これまでサオ・クア層からは報告されていない種類の竜脚類の化石が，プー・ペン標本に含まれていると考えられる．

図．左肩甲骨（外側観）の比較：A，P. sirindhornae の完模式標本（SM PW1-0007）；B，プー・ペン標本．スケールバー＝10cm.

次回のお知らせ　日時：6 月 15 日（水）　17 時～　場所：総合研究棟 B110

発表者：潮見　和幸（地圏変遷科学 M2）
菅野　音和（鉱物学 M2）

連絡先
池端　慶（岩石学）ikkei@geol.tsukuba.ac.jp
奥脇　亮（地球変動科学）rokuwaki@geol.tsukuba.ac.jp